



【主催】筑波大学附属桐が丘特別支援学校

令和7年度

オンラインを活用した自立活動演習

自立活動実践力錬成塾

全国どこからでも，“自立活動”の指導を学べます!!



参加申込はこちらから



- QRコードを読み込み、参加申込フォームに必要事項を御記入ください。
- 応募多数の場合、特別支援教育経験年数が5年以下の方を優先して受講者を決定します。

申込期限：令和7年6月6日（金）

<本件に関する問い合わせ先>

筑波大学附属桐が丘特別支援学校（本校） TEL 03-3958-0181

令和7年度 自立活動実践力錬成塾の概要

目的

- Web会議システムを活用し、自立活動の指導に悩む教師を対象に実態把握や指導計画作成等について年間を通じた研修により、自立活動の実践的指導力の向上を目指します。

内容

- ケース児について、実態把握・指導すべき課題／自立活動の指導目標・指導内容の設定／実践の経過・指導改善／評価の各演習をオンライン上で行います。
- 他の教員の視点を学び、新たな気付きを得ることにつながられるよう、2名程度の受講者に対してスーパーバイザー・サポーターを配置したグループ形式で実施します。

参加対象

- 特別支援学校教員、特別支援学級教員、通級による指導担当者、通常の学級で障害のある子供の指導を担当する方。
- 年間を通して継続参加が可能な方。
- 応募多数の場合、特別支援教育経験年数5年以下の方から、先着順にて受講者を決定します。

開設コース・募集人数

- 2つのコースを開設いたします。どちらかのコースをお選びください。

Aコース

募集人数: 6名

- 受講者が普段、自立活動の指導を担当している児童生徒の中から1名をケース児として挙げ、その様子をWeb会議システムで共有します。
- 普段、指導を担当しているケース児について演習することで、日常の実践を省察でき、自立活動の指導の悩みや困りに対して直接的に答えられる演習となります。

ケース児の映像をオンラインで共有するにあたって、本人・保護者・学校からの事前承諾を得ていただく必要があります。

Bコース

募集人数: 4名

- 桐が丘から挙げるケース児を対象とした演習に参加します。
- 演習を通じて、自立活動の指導における実態把握から評価までの一連の流れを行う上で、どのような視点や思考を働かせていけばよいのかを学びます。

桐が丘から挙げるケース児は、勤務校で担当されている児童生徒とは、障害の種類や状態等が異なる場合があることに了承していただく必要があります。

日程 (全9回)

- 6/28 (土) 10時~12時 模擬演習
- 7/19 (土) 10時~12時 ケース検討 (実態把握・指導すべき課題)
- 7/26 (土) 10時~12時 ケース検討 (実態把握・指導すべき課題)
- 9/27 (土) 10時~12時 ケース検討 (自立活動の指導目標・指導内容の設定)
- 10/25 (土) 10時~12時 ケース検討 (自立活動の指導目標・指導内容の設定)
- 11/15 (土) 10時~12時 ケース検討 (実践の経過・指導改善)
- 12/6 (土) 10時~12時 ケース検討 (実践の経過・指導改善)
- 2/7 (土) 10時~12時 ケース検討 (評価)
- 3/7 (土) 10時~12時 ケース検討 (評価)

参加費

- 10,000円 (全9回分)。
- 体調や校務等、受講者都合による欠席の場合、参加費の返金はいたしません。
- 下記にお振込みください。

<参加費の振込先>

■郵便振替

番号 00140-4-722070
加入者名 研究協議会

■ゆうちょ銀行

支店名 〇一九(ゼロイチキユウ)店
種別 当座
口座番号 0722070
加入者名 研究協議会

参加申込~受講までの流れ

- 表紙QRコードから必要事項を御記入ください。
- 受講決定者にはメールにて御連絡いたします。
- 受講決定後に参加費をお振込みください。お振込みが確認できた方へ、Web会議システムの案内等をさせていただきます。

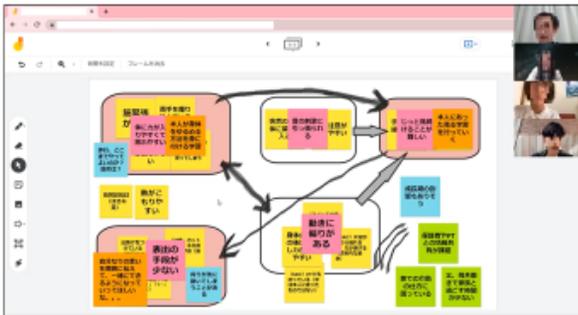
演習の様子

- Web会議システムは「Zoom」を使用します。事前に通信環境を確かめ、安定したインターネット接続ができる場所から御参加ください。
- Googleのツールを使用して資料提供や情報共有等を行います。御自身のGoogleのアカウントを取得してください。

演習1 実態把握・指導すべき課題

【ねらい】

- 対応や理解が難しい対象ケースの姿・行動について、その要因・背景に何が
あるのかを探ることで、そうならざるを得ない理由を抱えているという深い
対象理解を図り、真に必要な指導・支援をグループで検討する。



受講者の感想(令和5年度)

- 自分にはない気づきや考え方に会えることがすごく楽しく、勉強になりました。また、最初に予想していた実態のつながりや原因、背景がどんどん変わっていくことが「ぶれていっている」とよくないことのように思い、あせったのですが、そうではなくて、そうして、いろいろな情報やみんなの考えを合わせて考え、どんどん見え方が変わっていくことが、「見えない部分が見えてきた」ということなんだと実感しました。

演習2 自立活動の指導目標・指導内容の設定

【ねらい】

- 演習1で捉えた指導すべき課題をふまえて、対象ケースの自立活動の指導目標・指導内容を検討する。
- 話し合いを通じた気づきから、勤務校で作成されている個別の指導計画について、見直しを図る機会につなげる。



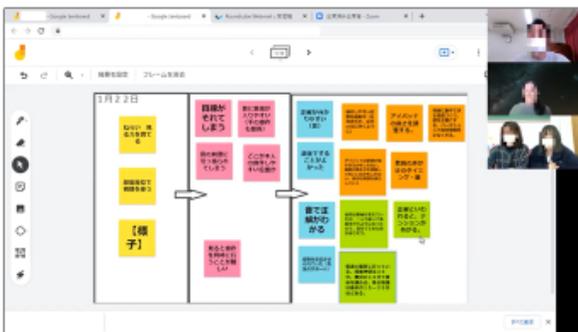
受講者の感想(令和6年度)

- 子どもに近い将来どうなっていきたいかを考えると、イメージできる姿は、先生方の考え方や経験で少し異なっているのかもしれないけれど、それを擦り合わせて共通理解することで、より目標にグッと迫る指導が行っていきけるはず・・・そしてそれが特別支援の面白さでもあったなあと改めて感じることができました。

演習3 実践の経過・指導改善

【ねらい】

- 演習2で検討した自立活動の指導目標・指導内容を勤務校で指導実践した際に、不安や悩みを抱いた場面を映像で共有する。
- よりよい指導に向けて、どのような改善や工夫ができるかをグループで話し合い、勤務校での指導実践に生かせるようにする。



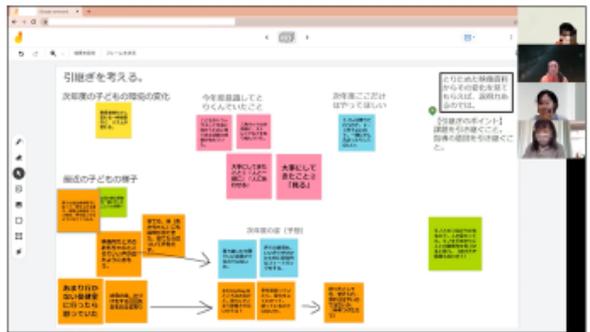
受講者の感想(令和6年度)

- 色分けした付箋を活用することで整理がしやすく、分かりやすいと実感しました。良い点についても改善点についても、(毎回思いますが)いろいろな意見が出てきてなるほどなと感心したり、共感したりする場面が必ずあり、自分の視野が広がる。児童生徒の主体的な活動を促すための教師の最初の提案の仕方が大事なと改めて思いました。具体的にそうなたらという設定が必要ですね。

演習4 評価

【ねらい】

- グループ内の他者の視点をふまえて、今年度の自立活動の指導の評価を確かめたり、見直したりする。
- 次年度への引継ぎという観点から、どのような意図で今年度の自立活動の指導を計画・実施してきたかを整理する。



受講者の感想(令和5年度)

- 定期的に複数教員でみとりを共有することによって、子どもの成長の軌跡を確かなものにすることができました。勤務校でも、口頭で子どもの姿を共有することはありますが、話し言葉だと長期的に残らないこともあります。練成塾で、1年間を通して共有したことを視覚化して残せたことは大きかったです。お陰様で、今年度だけでなく、次年度の支援にも活かせそうです。